

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2023年 7月 31日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)

大阪府大阪市北区大深町3番1号

グランフロント大阪タワーB

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)

アストラゼネカ株式会社 代表取締役社長 堀井

貴史

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項

第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例

第26条第1項

第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、[事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	アストラゼネカ株式会社 代表取締役社長 堀井 貴史
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪府大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB

1 事業者の概要

事業所の名称	アストラゼネカ株式会社 米原工場								
事業所の所在地	滋賀県米原市三吉 215-31								
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	5	2	※ 産業分類・細分類名称を記載 医薬品製剤製造業			
事業の概要	医薬品の包装								
従業員の数	242	人	操業時間	16	時間/日				
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者							
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者							
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者							
主要な設備	ボイラ	0	台	熱源設備	59	台	照明設備	設備容量合計 385kW	台
	コンプレッサ	6	台	空気調和設備	41	台	その他	生産設備 設備容量合計 415kW	

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	R4	年度	報告対象年度	R4	年度
	終了年度	R8	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

1)基本方針

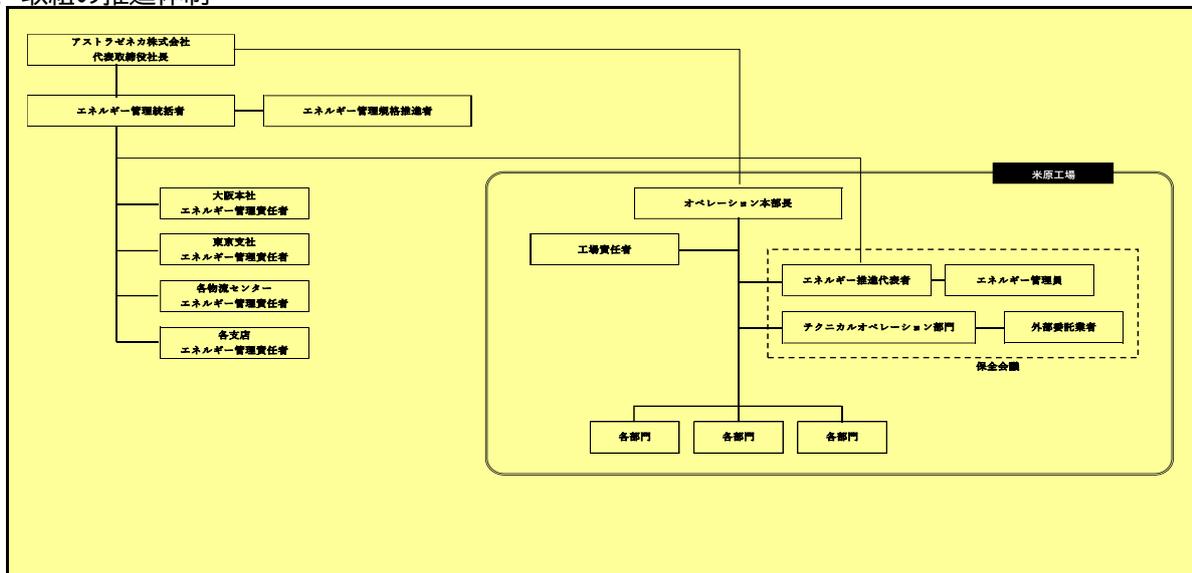
- エネルギーの効率的な使用を目指す
- 環境資源への依存と影響を最小限にする
- 環境保全に務めることにより社会的責任を果たす

2)取り組み

- 環境保全に関する法規制を順守する
- 医薬品製造業として環境に配慮した医薬品の提供に努める
- 行動規範に従い、環境に配慮した事業活動を行う
- 中長期的に温室効果ガス削減と環境保全活動に取り組む
- CO₂ネットゼロ社会づくりに係る方針を従業員に周知徹底する

日本におけるネットゼロ社会実現の加速に向けた環境整備に関する提言(アストラゼネカ白書)
 [https://www.astrazeneca.co.jp/content/dam/az-jp/responsibility/sustainability/document/Japan white paper Japanese.pdf]

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

エネルギー使用効率化

- ・高効率コンプレッサーの導入によりコンプレッサー全体の電気使用量を14%削減
- ・照明設備のLED化および間引き点灯運用の実施。屋外水銀灯を高効率照明に更新
- ・季節要因に応じた熱源機の稼働機選択による運用改善
- ・ガス給湯器を電気給湯器に転換

再生可能エネルギー

- ・Jクレジット制度活用を通じて再生可能エネルギー100%を達成(RE100)(R3年度)

環境に配慮した製品

- ・製品の個装箱に再生紙を利用(100%)
- ・製品のブリスターパックに環境負荷が少ないポリプロピレンを使用(90%)
- ・製品の添付文書を電子化し、紙の添付文書を段階的に終了

サステナビリティ活動

- ・サステナビリティを文化として組織に定着させることを目標に活動する自主活動チーム「サステナビリティチャンピオン」を中心に、廃棄物削減や食堂のフードロス削減活動等を実施
- ・デジタル化の推進による紙使用量削減

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	LED照明の導入、照明間引き、照明時間の最適化	R3～4年度	実施中 (～R7年)
2	運用改善	熱回収ホップ運用改善	R4年度	完了
3	運用改善	冬季熱源機の2台停止	R4年度	完了
4	ポイント改善	空調機の還気利用化	R4～R6	実施中
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	HFCs	フロン類使用設備の更新(故障による漏洩防止のため)	R4～8年度	実施中
2	HFCs	フロン類(R22)を使用する遊休設備のガス回収(漏洩防止のため)	R4年度	完了
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>R3年度を基準値として、原単位を年平均1%以上削減する。</p> <p>原単位＝ 温室効果ガス総排出量(t-CO₂) / 空調面積×空調稼働時間(m²×Hr)</p> <p>エネルギー起源CO₂排出量は空調稼働時間に大きく関係するため、空調面積×空調稼働時間(m²×Hr)を原単位の算出に係る指標(分母)に設定する。CO₂排出係数は当該年度の電気事業者が公表する値を使用する。</p> <p>目標達成のために、削減取組を計画的に実施するとともに、省エネ法の判断基準に準拠した管理標準に基づいてエネルギー使用設備を適切に管理する。</p>	<p>計画に沿った進捗となっている。</p> <p>【当該年度報告：R4年度】 ・原単位 0.021 t-CO₂/m²・Hr ・対前年度比 58.2% ・計画期間における年平均削減率 41.8%</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
原油換算エネルギー使用量	kL	2,518	2,110			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	4,420	2,529			
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	4,420	2,529			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0			
CH ₄	t-CO ₂					
N ₂ O	t-CO ₂					
HFCs	t-CO ₂					
PFCs	t-CO ₂					
SF ₆	t-CO ₂					
NF ₃	t-CO ₂					
エネルギー等原単位の推移		0.035	0.021			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光パネルの設置による自家発電	R4年度	完了
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	1,560 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		(R4)年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0	1,748			
上記のうち自家消費量	kWh	0	1,748			

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
AZCプログラムを通じて、2025年までに世界規模で自社の事業活動からの温室効果ガス排出量ゼロ、2030年までにバリューチェーン全体でのカーボンネガティブを達成する	・医薬品添付文書の電子化
	CO ₂ 削減貢献量
	— t-CO ₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
「日本におけるネットゼロ社会実現の加速に向けた環境整備に関する提言(アストラゼネカ白書)」参照。 https://www.astrazeneca.co.jp/content/dam/az-jp/responsibility/sustainability/document/Japan_white_paper_Japanese.pdf

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
—
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠
—

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	4,420	2,529				
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂	4,420	912				
【調整後排出係数】	kg-CO ₂ /kWh	4~10月:0.485 11~3月:0.362	4~8月:0.299 9~3月:0.000				
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂	4,420	2,529				
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	その他	駐車場に電気自動車充電スポット(3台)を設置	R4	完了
2				
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	保有車輛の数	台	0	0				
	上記のうち 次世代自動車の数	台	0	0				
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	マザーレイク ゴールズ(ML Gs)の取組	琵琶湖湖岸清掃、およびニゴロブナの稚魚放流活動	R4~R8	R4年度:完了 稚魚1000匹放流
2				
3				
4				
5				